



兵庫教育大学の 国際交流

我が国でもグローバル化が進展しており、グローバル化に対応することは教師教育においてもきわめて重要になっています。仕事と生活の本拠を外国に置く人々が格段に増え、それは特別なことではなくなっています。日本にいても、外国からの人、物、文化が、日本発のそれらと変わらないぐらいの存在感を持つつあります。子どもたちはこのような社会を生きることになるわけです。子どもたちを育てる教員には、そうした認識と国際化対応の力量形成が求められています。

新しい教育課題に対応できる教員養成をミッションとする本学は、そのための一つの取り組みとして、外国と交流する教育研究活動を積極的に展開しています。研究者と学生の交流を目的とする協定をアメリカ、中国、韓国、台湾、タイの11大学と締結しています。これらの大学と本学の教員が相互に訪問して、世界各国の学校教育の教材や指導法についての共同研究を行っています。

国際理解教育や途上国の教育開発を推進できる人材、小学校英語活動の指導や教材開発について高い能力を有する人材など、グローバル化に伴う教育課題に対応できる人材を養成する特別プログラムも実施しています。

学生交流については、本学の学生を協定大学に派遣し、協定大学の学生を本学に受け入れるプログラムを活発に展開しています。マスターコースとドクターコースには、アジアを中心に多くの国からの留学生が学んでいますし、本学の学生も協定大学へ長期留学しています。現職教員の留学生もおります。大学院の秋季入学制度を始めましたし、2つの大学から学位を同時に取得できる「ダブルディグリー」の創設も予定しています。

日本の若者の「内向き志向」が指摘されていることもあり、これから教員になろうとする学部生や大学院生に対して、外国学生との交流は特に必要性が高く、また効果的と考えられます。そこで、最近では、国の支援事業を活用するなどして、短期の交流事業に力を入れています。アメリカのウィスコンシン大学、韓国の大邱・京仁の両教育大学校、中国の華南師範大学、台湾の屏東教育大学などとの多数の相互訪問プログラムを行っています。その内容は、訪問国の学校教育の特色を学ぶ授業、学校訪問、伝統文化体験、部活動交流など充実しており、双方の学生の満足度は高いようです。

交流協定大学と交流プログラムを拡充するとともに、これまでの交流プログラムの効果を検証して、グローバル化に対応した教師教育の一層の充実に努めていきたいと考えています。

かじさてつや
学長 加治佐哲也